

みなさんおはようございます！

2学期がスタートしました。夏休み中、とても暑い中、どのクラスも文化祭の準備にかかっていて、お化け屋敷の準備やら熱が入っているなと思いました。また文化祭スタッフも夏休み中、虹の制作の練習に頑張って中庭の準備をしていましたね。今年は、13日、14日に瀬谷虹祭が予定されています。初めての電子決済の導入もあります。皆さんで力を合わせて、最高の瀬谷虹祭を作り上げてください。まだまだ暑い日が続きますが、熱中症に気を付けながら、2学期に気持ちを切り替えていきましょう。

さて、以前にも触れたかと思いますが、2025年は、昭和でいうと100年目。ということは、昭和20年に終戦を迎えていますので、戦後80年の節目の年にあたり、8月15日を中心にテレビや新聞でも特集があり、日本にとって「戦争の惨禍をどう記憶し、次の世代へどう伝えるか」が大切だという話がありました。戦争を直接体験した世代が少なくなり、戦争の実態を「語れる人」が減ってきています。当時10代だった方は、現在90代ということになります。その一方で、記録や証言映像、平和祈念館の展示、学校などを通じて、その体験をどう伝えるかが課題になっています。

そんな中で、NHKのクローズアップ現代で、8月5日に「“我が魂は奪われはしない” 福山雅治 響きあう歌と平和」という番組がありました。そして8月9日、長崎の平和祈念式典では、二つの小学校の児童により、「クスノキ」という福山さんの楽曲を合唱されました。この「クスノキ」は、長崎市の山王神社にある「クスノキ」を題材にしています。

80年前の8月9日に原子爆弾が投下された長崎。町中が焼き尽くされ、70年は草木も生えないと言われたそうです。しかし爆心地からほど近い山王神社にある「クスノキ」は、原爆で焼かれながらも再び芽吹き、いまや樹齢500年の大木となり、地元では長年希望や平和の象徴として大切にされてきたそうです。「被ばく樹木」と言われています。

福山さんは、17歳の時に父親を癌で亡くしています。自らを被ばく二世と告白しています。その父親が闘病中に、福山さんは、「クスノキ」に出会い、この楽曲を創りたいと考えたそうです。それから24年の時間が流れ、2014年に発表されたようです。今では、合唱曲にもなり、皆さんの中には歌ったことがある人もいるかもしれません。興味のある人は、ぜひ一度聞いてみてください。そして平和について、非核について、考えてみてください。

また同じく80年前の8月9日にソ連による満州侵攻がありました。嵐の二宮和也さんが主演し、2022年に公開された「ラーゲリより愛をこめて」という映画が8月11日に放映されました。この映画は、満州で捕虜となり、第二次世界大戦後にシベリアで抑留された実在の日本人・山本幡男さんの過酷な抑留生活を描いており、作家辺見じゅんさんによるノンフィクションを原作としています。シベリア抑留は、第二次世界大戦後に約60万人の日本兵や民間人がソ連に強制連行され、冬には-40度にもなる極寒のシベリアなどで強制労働させられた出来事で、わずかなパンやスープなどのみで寒さと飢えに苦しみ、約5万人以上の日本人が命を落としたと言われています。そして日ソ共同宣言が出された1956年実に戦争

終結から 11 年後に、全員の帰国が許されたそうです。

さて映画は、冬には−40 度にもなる極寒のシベリアの「収容所（ラーゲリ）」の中で、死と隣り合わせの日々を過ごししながら、家族を想い、仲間を想い、「生きる希望を捨ててはいけない。帰国（ダモイ）の日は必ず来ます。」と絶望する抑留者達に訴え続けた山本幡男さんの壮絶な半生を描いています。クライマックスのシーンは涙が止まりませんでした。

先ほどお話したように戦後 80 年が経過し、戦争を直接体験した世代が少なくなり、戦争の実態を「語れる人」が減ってきています。その体験をどう伝えるかが課題になっているわけです。そこで、このような映画やアーティストによって作られた楽曲を通じて、戦争というものを皆さんが知り、感じるということは大切なことだと思います。そして次の世代へ繋いでいくことが求められると思います。是非皆さんに考えてもらいたいと考え、今日お話ししました。